



世界遺産の地で那智黒石の文化を守る

かりたにばいかんどう
仮谷梅管堂 三重県熊野市神川町

碁石や硯^{すずり}として珍重される那智黒石は、那智と冠して呼ばれるものの、実際に鉱脈があり産出するのは熊野市神川町の神上^{こうのうえ}地区に限られる。

この地で1895（明治28）年に創業した「仮谷梅管堂」は、那智黒石の採石と那智黒石製品全般の加工販売を営々と営んできた。

しかし、プラスチック製などの代替品や輸入品の増加で近年は生産量も減少。そこで、3代目となる仮谷紘義氏は、本物の那智黒石を広く知ってもらうため、「まちかど博物館」である本店・工房で体験学習の場を提供する他、他業界とのコラボや海外展開で需要開拓を図り、熊野の伝統工芸の保存に努めるとともに更なる飛躍を目指す。

会社概要



会社名：仮谷梅管堂
本店・工房：三重県熊野市神川町神上804-1
電話：0597-82-0015
FAX：0597-82-0514
創業：1895（明治28）年
代表者：仮谷 紘義
資本金：非法人 従業員：6名
事業内容：那智黒石の採石。硯、碁石、
試金石、床置石、装飾品等の那
智黒石製品全般の加工販売。
URL：<http://www.kumanoshi.com/shop/karitani.html>

世界遺産の地で伝統産業を守る

紀伊山地南部、奈良県と三重県の県境から車で山間を20分ほど進み熊野川上流を少し分け入った神上^{こうのうえ}は、山々に囲まれたのどかな山村である。

熊野の伝統的な工芸品である那智黒石は、産出されるのが全国でもこの地区だけという貴重な石で、1895（明治28）年創業の「仮谷梅管堂」は、那智黒石の採石と那智黒石製品全般の加工販売を営々と営んできた。

その黒色の粒子ひとつは1万分の1ミリという緻密さで、磨くほど輝きを増す。材質は堅いものの、石の目に沿ってカットすると剥がれやすいことから、古くから碁石や硯の材料として有名で、また、金属の条痕色が判別しやすいため金の品質を計るための試金石としても用いられ、「三重県指定伝統工芸品」に選定されている。



那智黒石の採掘現場（上）と加工作業（下）



本店は「まちかど博物館」として那智黒石を紹介

ただ、産出量は1984（昭和59）年の1,400トンにピークに、近年は約150トンに減少。プラスチックなどの安価な代替品が増えたほか、輸入品の増加も一因で、輸入品が「那智黒」を名乗るのを防ぐために商標登録もしている。

最盛期には、10を超えた採掘・生産事業者も、今では仮谷梅管堂を始め2業者となり、組合加盟

の成形事業者を含めても8事業者ほどに減少した。職人も減少し、半製品の状態で出荷する割合も増えているのが現状である。

そこで、創業以来3代目となる仮谷紘義氏は、サラリーマンであった息子の憲司氏を4代目として呼び戻し、親と子で熊野の伝統産業を守る。

平安期の「熊野詣」で全国に名を広める

「那智黒の歴史は、黒い玉碁石が遣唐使で中国に贈られたとも考えられる資料があります」「かつては、神上の石が熊野川の流れてきれいに磨かれ、熊野川の川岸や南紀・熊野の海岸では黒い石をたくさん拾うことができました。平安時代から熊野詣の人々がそれを土産に持ち帰ったことで、那智黒石が全国に広まり、碁石や硯としても知られるようになりました」と、仮谷氏は那智黒石の歴史を解説する。

漆黒の石は、別名^{しんけいせき}神溪石、^{うすいせき}烏翠石、^{こうのうえいし}神上石などと呼ばれ貴ばれてきた。白の「^{ひょうがはまぐり}日向蛤」とともに最高級の碁石とされる黒の那智黒石。清閑な部屋に碁石を打つ響きは本物ならではの趣が有る。

現在、1500万年前といわれる地層は露天掘りも可能だが、地層が傾斜していることから徐々に下へと掘り進む必要があり、採算面でいずれ採掘も不可能となる限りある資源である。

そこで近年開発されたのが那智黒成型品である。これは、加工工程でできた端材等の那智黒石を粉末状にして樹脂をませ合わせ、型に流し込んで成型したもので、「那智黒手磨き工芸品」又は「ニュー那智黒（登録商標）」と呼ばれ、立体的な置物や花器などの成形が容易になり、手頃な価格の製品も生産可能となった。

日本の伝統文化を守り、海外への展開も視野に

「まちかど博物館」である本店・工房では、本物を広く知ってもらうため、予約すれば那智黒石について学びながらオリジナルの作品づくりの体験ができ、また、三重県立熊野古道センターなどで体験学習室も開催している。

また現在、日本棋院では海外展開を活発に進めているが、歩を一にして那智黒も海外に知られるようになってきた。中でも、囲碁のルーツである

緻密な石質の硯は、画家富岡鉄斎も好んだ。



最高級の碁石とされる黒の那智黒石と白の日向蛤。



きめ細やかな石はエステでも重用。

中国では高級品の碁盤・碁石が好まれる傾向にあることから、需要はまだ伸びると見ている。

さらに、他の業界とのコラボレーションで新しい需要開拓に取り組んでいる。インテリアとしてフランスで人気を博しているほか、きめ細やかで丸みを帯び神秘的ともいえる漆黒の石は、近年、マッサージストーンとしてエステ業界でも注目され、美容と健康の面からも活用が進んでいる。

那智黒石は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の地で脈々と続く産業遺産・文化遺産とも言うべきものであり、囲碁、あるいは書道といった古来の文化、また、エステといった最新の文化とともに、国内、海外への飛躍が期待されるようになった。

その中、熊野が誇る漆黒の石は、ひっそりとした山村で、ここにしかない貴重な文化として、守り続けられている。

(山城満、太田宜志)